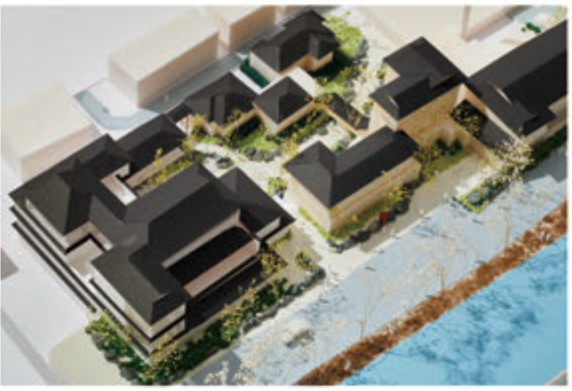
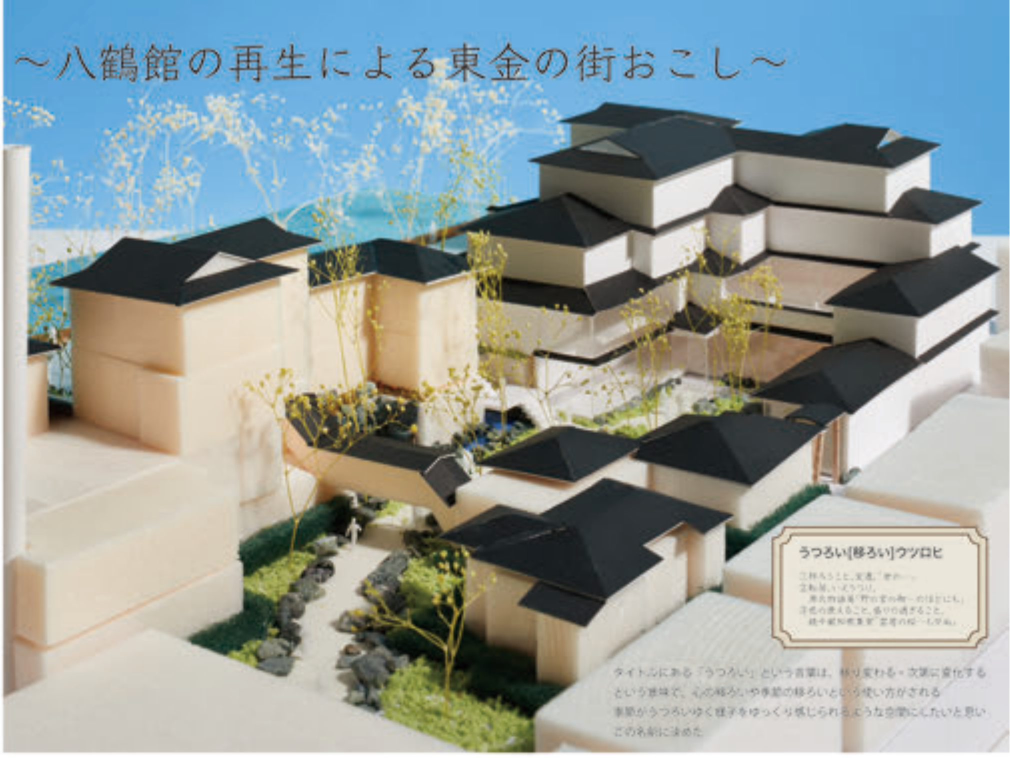
うつろいの湯

～八鶴館の再生による東金の街おこし～

千葉県東金市にある八鶴館を一部再開発し、地域活性化を目指した温浴施設を計画する。
コロナの打撃で収益が減少し、建物の維持が難しい現状を踏まえ、永続的な収益の確保と
地域住民の憩いの場所となるような温浴施設を提案する。





うつろい[移ろい]ウツロヒ

①移ろうこと。変遷。「世の―」
②転居。いえうつり。
　源氏物語賢木「野の宮の御―のほどにも」
③色の衰えること。盛りの過ぎること。
　続千載和歌集「霜枯の菊―も惜し」

タイトルにある「うつろい」という言葉は、移り変わる・次第に変化するという意味で、心の移ろいや季節の移ろいという使い方がされる
季節がうつろいゆく様子をゆっくり感じられるような空間にしたいと思いこの名前に決めた

コロナの影響を受けてレストランが一度廃業し、
１年間閉業していた。収益が大幅に減少してしまった。

現在、地元の有志の方々が立ち上がり、
ボランティア団体による八鶴館の
保存活動が進行している。

とても大きい建物なため、膨大な税金がかかってしまう
人の手が入らず、毎回建物は老朽化していく。

【 現状 】
○コロナの影響による収益の減少
○ボランティアによる八鶴館の保存活動
○莫大な税金と老朽化していく建物

現在保存が危ぶまれている八鶴館を一部再開発することで、かつての活気を取り戻すことができ、
現状抱えているこれらの課題解決につながるのではないかと考えた

○コンセプト

母校である東金高校と
八鶴湖周辺の活性化

地域の人が集まるような
居心地の良い温浴施設を計画したい

国登録有形文化財である
八鶴館の保存と再生

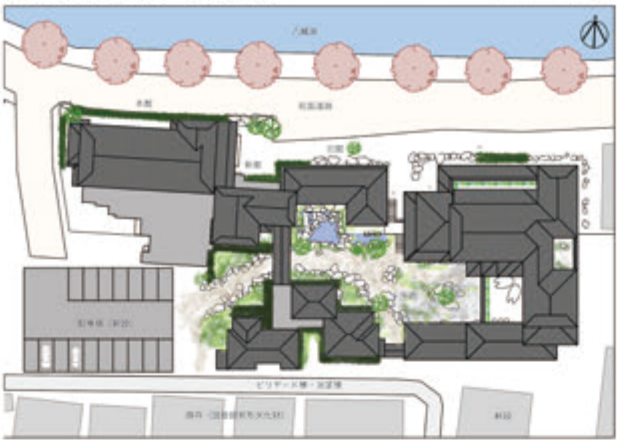
地域活性化を目指した温浴施設を計画する。
毎年開催のさくら祭りに頼った集客から、季節を通して人々が集まる空間を目指し、新たな温浴施設のあり方を提案する。

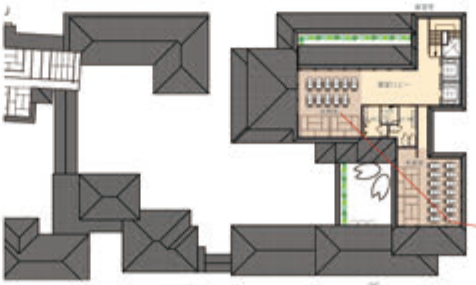
季節がうつろいゆく様子を感じられるような空間・日常には変化が付きもの、ゆっくりとした時間を過ごす空間

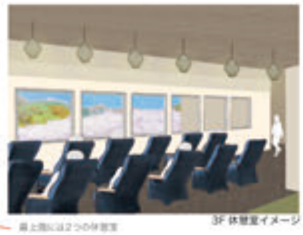
温浴施設＋地域活性化・・・新しい温浴施設のかたち

○屋根伏せ図兼全体配置図　scale　1:500

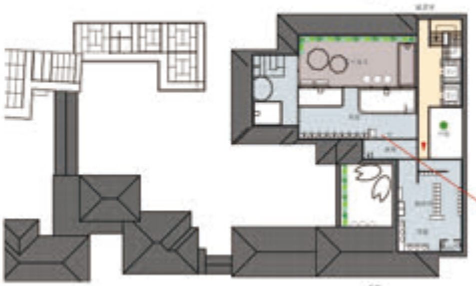
敷地面積　約3000㎡

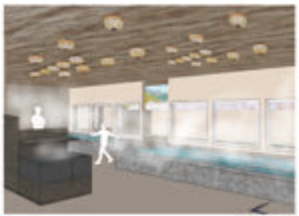



3F

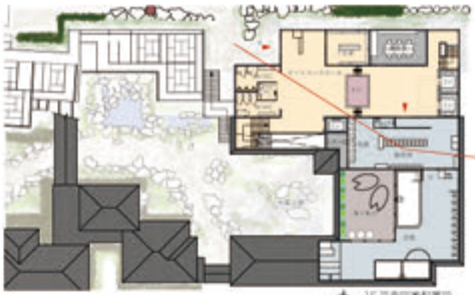

3F 休憩室イメージ

最上階には２つの休憩室
八鶴湖を一望できる
季節のうつろいを感じられる空間に


2F


浴室イメージ

中庭が見える1Fの浴室と、八鶴湖が見える2Fの浴室は男女日替わりの仕組みに
日によってどちらも楽しむことができる
何度も訪れたくなるような表情が変わる空間

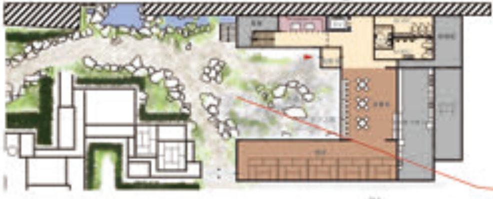

1F 平面図兼配置図
scale 1:200

エントランスイメージ

通りからは少し奥まったエントランス

すぐそばには中庭に続く階段があり、
食事処やショップの賑わいも聞こえてくる

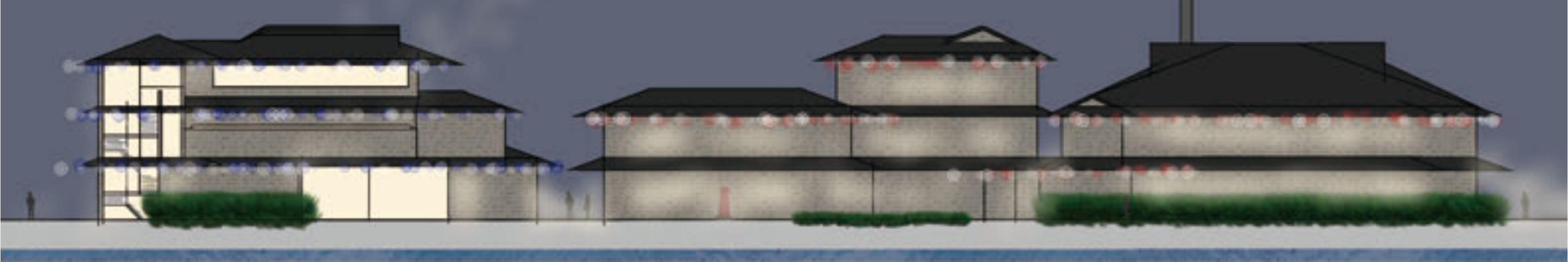
思わず探検したくなるような


B1

中庭イメージ

回遊性のある和風庭園と建物の繋がりを感じる事ができる空間

かつては静かだった中庭だが、大通りからの人の流れが出来たことで八鶴館の新しい一面に触れる事ができる

ファサードイメージ（夜）